



塩尻産ワインの銘柄ごと発行するワインカード(手前)

# 塩尻ワインカードでPR 販路拡大へ 新たな試み

塩尻産ワインの情報カード(ワイカ)を、塩尻市の一般社団法人・信州アルプス大

イン(塩原悟文社長)が共同製作した。ワインの周知や販路拡大の

新たな切り口につなげたいと考えて、来春をめどに、市内の他のワイナリーにもカード発行

企画した。中村代表(50)は「ありそうでなかつたモデル。塩尻産

学校(中村剣代表)と、同市洗馬の信濃ワイン(塩原悟文社長)が共同製作した。ワインの周知や販路拡大の

新たな切り口につなげたいと考えて、来春をめどに、市内の他のワイナリーにもカード発行

企画した。中村代表(50)は「ありそうでなかつたモデル。塩尻産

ワインの5銘柄のワインの購入者に贈るが、

トレーディングカードと呼ばれる収集や交換を目的としたカード

にヒントを得た。ワインの情報カード(ワイカ)の表にワインの名前とラベルの絵柄を、裏にはブドウの種類や収穫年、味のタイプ、ワイナリーの情報などを載せている。赤ワイン、白ワイン、ロゼの違いはカードの色分けで表した。当面は信濃

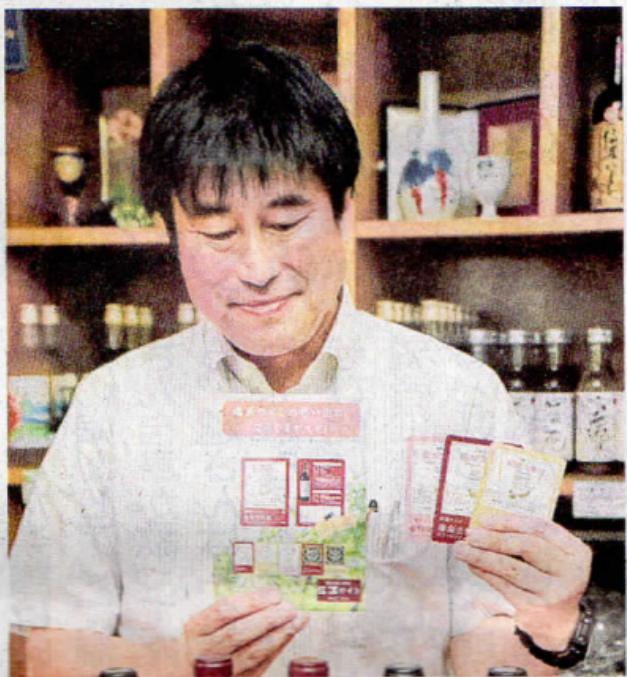
他のワイナリーにも輪を広げてカードの種類を増やしたい考えだ。

ワインの情報を記録したいと考える愛飲家のニーズに応えつつ、カード特有の流通性が広告塔となることを期待してアルプス大学が企画した。中村代表(50)は「ありそうでなかつたモデル。塩尻産

ワイン全体の底上げの一助となれば」と話している。

(有賀文香)

ラベル印刷5種500枚  
信州アルプス大学が作製



塩尻ワインを紹介したトレーディングカードを持つ中村さん

「グカード」を発行、同社の売店でワイン購入者に配布している。カードを集めることで塩尻ブランドへの関心を高めてもらう狙い。今後、同地区の他のワイナリーにも協力を呼び掛けていく考えだ。

カードは縦9センチ、横6・5センチで、表にワインのラベルを印刷し、裏面にブドウの品種や収穫年、販売元のワイナリーが記載されている。今回は信濃ワインが販売している「葡萄交響曲」と「信濃ワインデラックス」の5種計50

0枚を作った。

信州アルプス大学の学長で経営コンサルタントの中村剣

さん(50)は、市観光協会が認定する

塩尻観光ワインガイドも務め、塩尻ワインをどう広めるかを考えてきた。「ワイン好きにはラベルを剥がして収集する人もいるが、カードならより手軽に集めることができ

る。他のワイナリーのカードも作って、塩尻ワインに親しくてほしい」と話している。

地域住民を講師に地域を知る講座を開いている塩尻市の中村剣さん(50)が、同

市桔梗ヶ原地区の信濃ワイン

と協力し、ワインラベルを印

信濃ワインが販売している「葡萄交響曲」と「信濃ワインデラックス」の5種計50

枚を作った。